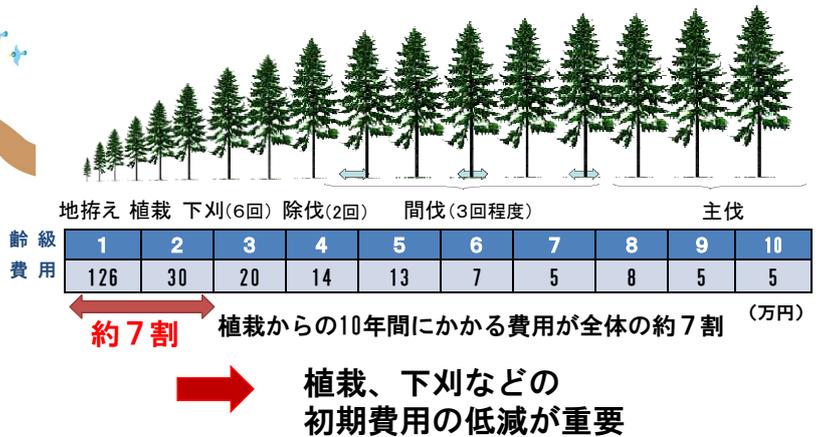


再造林の低コスト化に向けた取組

着実な再造林を図るために、コンテナ苗の活用、一貫作業システムの実証・普及による低コスト化に取り組みます。

背景

- 東北5県の民有林では、人工林伐採後の植栽による再造林率が3割弱※に低迷しています。
(※東北森林管理局調べ)
- 造林費用を低コスト化し、伐採から再造林への循環を確立することが急務です。



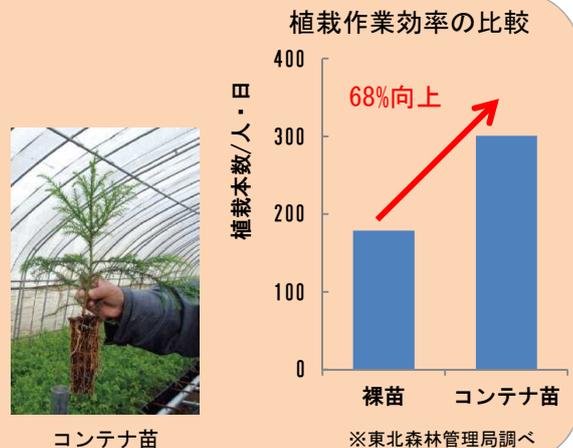
【平成27年度の取組予定】

植栽におけるコンテナ苗の活用推進

従来の「裸苗」と比べて植栽作業を大幅に効率化できる「コンテナ苗」の積極的な活用を進め、再造林の低コスト化技術の普及・定着を図ります。

また、スギの植栽にあたっては、可能な限り花粉対策苗の活用を努めます。

※コンテナ苗植栽面積
H27 : 118 ha (20署・支署) (予定)
(H26 : 38 ha (14署・支署))



コンテナ苗

一貫作業システムによる低コスト化の実証と普及

伐採とその後の地拵え・植栽を連続的に実施する「一貫作業システム」について、作業全体を効率化・低コスト化する手法を実証し、現地検討会を通じた林業事業者等の民有林関係者への普及に取り組みます。

※一貫作業実施箇所
H27 : 5署・支署 / 21 ha (予定)
(H26 : 1支署 / 4 ha)



伐採と並行した地拵えの様子

